

令和4年度霞ヶ浦学講座第9講霞ヶ浦のヒミツを探ろう3「里山のヒミツ」実施報告

実施日時：令和4年11月26日（土）9:00-12:30

場所：霞ヶ浦環境科学センター多目的ホール、土浦市宍塚の里山

参加者数：13名（内小学生3名）

内容：前半 講演、後半 フィールドワーク

講師：森本信生氏（認定NPO法人宍塚の自然と歴史の会理事長）

フィールドワークサポート：同会会員2名

実施概要

認定NPO法人宍塚の自然と歴史の会理事長森本信生氏を講師に迎え、前半は里山や里山保全活動についてお話を伺いました。同会は土浦市宍塚で、30年以上にわたって里山保全活動を実施している団体になります。

後半は、同会の活動フィールドである土浦市宍塚の里山に赴き、活動場所、宍塚大池などを見学しました。



【講演概要】

<里山とは>

「里山は、原生的な自然と都市との中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成されています。農林業などに伴うさまさま人間の働きかけが、1,000年以上にわたって持続的に活用されてきました。人の手が加わり続けることで維持されてきたこのような明るい林や田んぼ、小川、ため池などは、多くの環境要素が集まっており、日本の面積の40%が里山になります。」（出典 総合地球環境学研究所）

霞ヶ浦流域にも多くの里山が残されています。そして里山は、水や大気保全など、人の生活に欠かせない公益的な機能を有しています。動植物の生息場所としても重要です。

<宍塚の里山>

宍塚の里山は、土浦市宍塚側、つくば市吉瀬側と合わせて約200haになり、東京から筑波山麓までの中で最大級の里山となり、環境省「生物多様性保全上重要な里山（重要里地里山）」に選定されています。里山の中央にある「ため池」は、広さ3.5haのため池で「ため池百選」（農林水産省）に選定されています。生物種ではチョウ・トンボは全国の約1/4種（チョウ73種、トンボ57種）、植物は県内で見られる種の約1/3種（850種）、野鳥157種が確認されています。絶滅危惧種は国、県の指定合わせて48種の生息が確認されています。また、はるか昔から人々の営みがあり、ため池、雑木林、田畑の組み合わせにより支えられてきた里山の暮らし・文化が維持・保全されています。

認定NPO法人宍塚の自然と歴史の会の活動は多岐にわたり、学び（観察会、環境教育）、調査（生物種のモニタリング、歴史聞き書きなど）、保全（雑木林の植生管理、外来種駆除など）、農（農家支援、自然農田んぼ塾など）、広報活動を実施しています。

【フィールドワーク概要】

土浦市宍塚の里山（認定 NPO 法人宍塚の自然と歴史の会の活動フィールド）を見学しました。



イベントに参加した子どもたちによるかかし



約 140 年前に建てられた改修中の古民家



ふれあい農園

（市民農園として貸し出しも行っています。）



不耕起農法による水田

（生物多様性保全も兼ねています。）



唐箕を体験する子どもたち



オニバス、ジュンサイなどを育てています。

（水草の系統保存）



今は耕作放棄地ですが、カヤネズミの生息地となっており、定期的に刈り取りを行っています。



池の堤防



明治時代の迅速測図にも記載されている穴塚大池



約 30 年前に植林したヒノキ (明るい林)



耕作が放棄され今は湿地となっています。



茨城県自然博物館などと 10 年以上定期的に植物調査を実施しています。

(文責 小川)